

新型コロナウイルス影響調査（9月）

■調査の概要

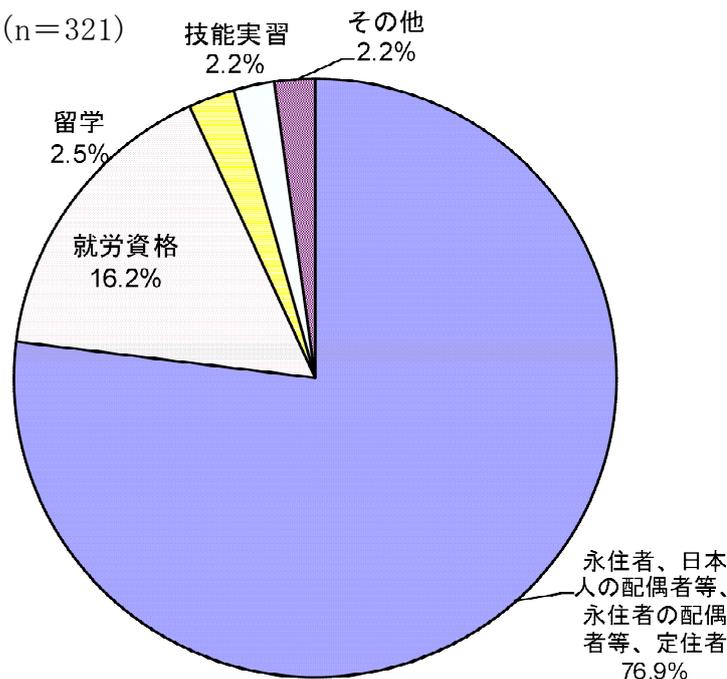
区 分	内 容
調査対象	外国人県民（ブラジル人、フィリピン人） ・多文化共生課 Facebook に登録している人 ・在浜松ブラジル総領事館・静岡県多文化共生総合相談センター かめりあ・市町相談センターの利用者 ・県営住宅に住んでいる人 等
調査方法	インターネットによるアンケート調査
調査時点	令和2年9月1日現在
調査期間	令和2年9月5日（金）から30日（火）まで
集計件数	326件（ポルトガル語205件、フィリピン語121件）
結果の見方	「n」は number of samples 標本数 「SA」は single answer 単回答 「MA」は multiple answer 複数回答

■主な調査結果

1 在留資格（SA）

在留資格については、「永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等、定住者」が76.9%、次いで「就労資格」が16.2%であった。

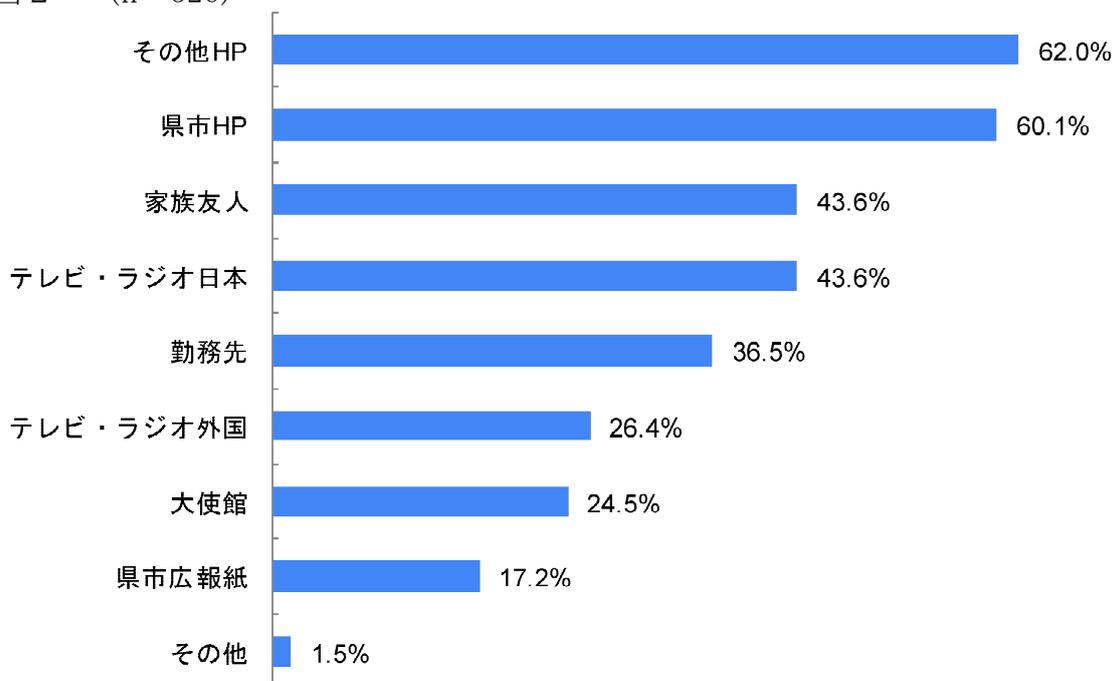
図1 在留資格（n=321）



2 新型コロナウイルスに関する情報入手先（MA）

新型コロナウイルスに関する情報入手先については、「その他のHP」が62.0%、次いで「縣市HP」が60.1%と、前回に引き続きインターネットを介した情報入手が多かった。その後は「家族友人」（43.6%）、「テレビ・ラジオ日本」（43.6%）、「勤務先」（36.5%）と続いた。

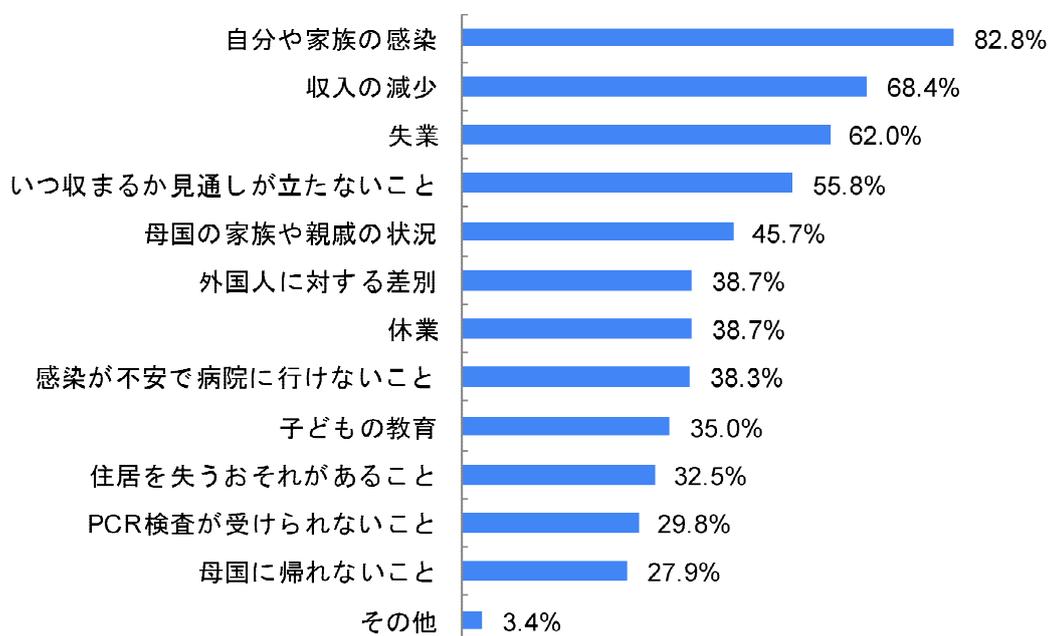
図2 (n=326)



3 新型コロナウイルスの影響により困っていること（MA）

新型コロナウイルスの影響により困っていること（複数回答可）については、「自分や家族の感染」が82.8%、次いで「収入の減少」が68.4%、「失業」が62.0%となった。

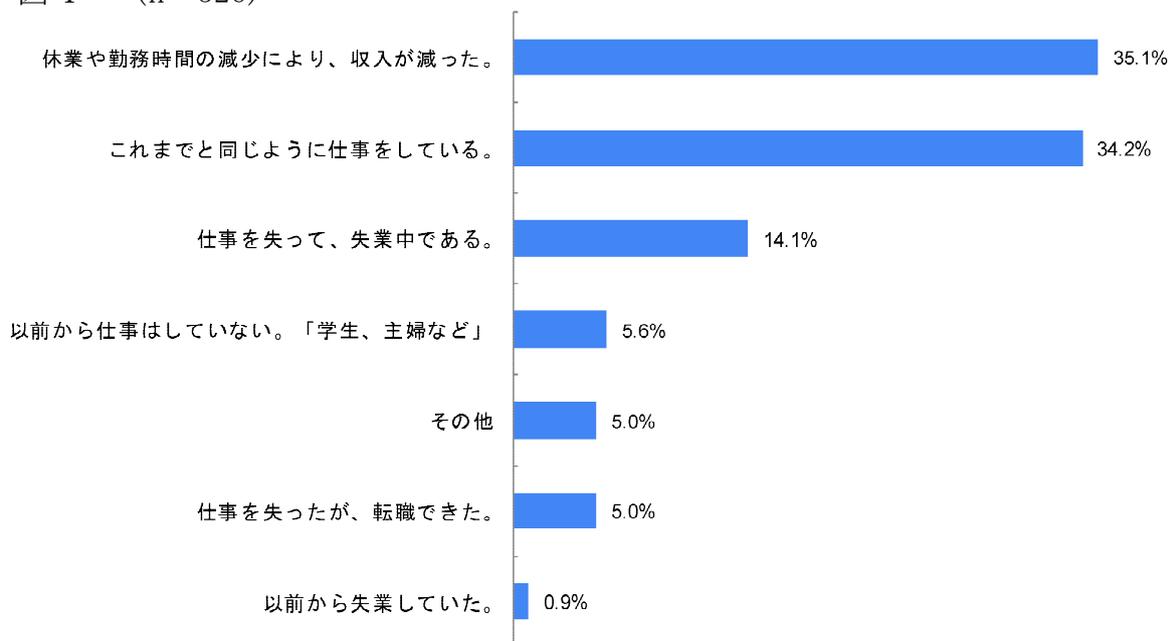
図3 (n=326)



4 新型コロナウイルスの影響による仕事の状況（SA）

新型コロナウイルスの影響による仕事の状況については、「休業や勤務時間の減少により、収入が減った」が35.1%、「仕事を失って、失業中である」が14.1%と約半数に影響が出ている。6月時点では約7割だった。

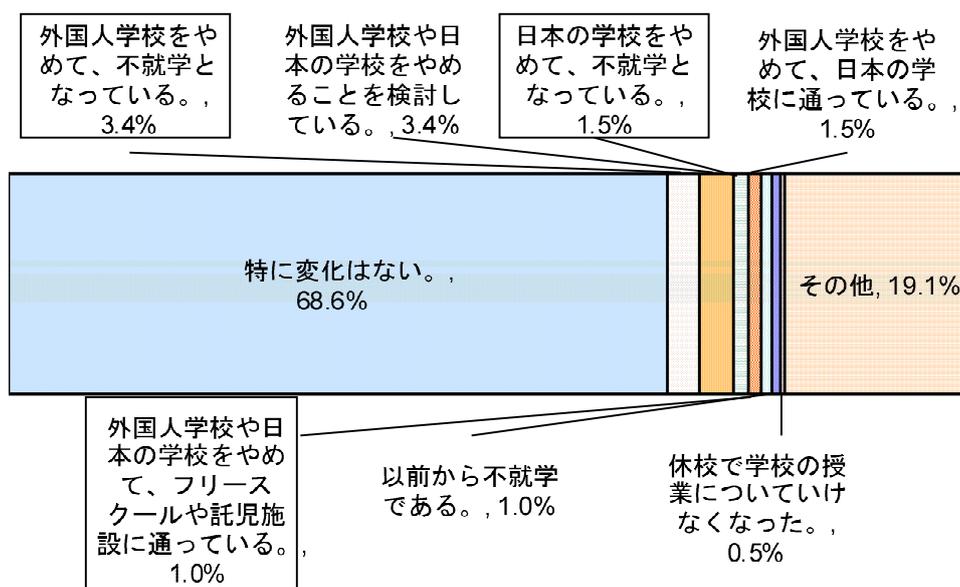
図4 (n=326)



5 新型コロナウイルスの影響による、子どもたちの教育環境の変化（SA）

約5割が「特に変化はない」と回答した。一方で新型コロナウイルスの影響により、不就学となっているとの回答は5.9%あった。

図5 (n=291)



6 県や市に対してどのような支援・サービスを望むか（S A、5段階評価）

どの項目についても「強く望む」または「望む」が大半を占めているが、「強く望む」との内容が最も多かったのは「医療機関における通訳サービスの提供」であった。前回最も多かった「就職・転職のための技能・技術や日本語学習の支援」は技能・技術が4番目、日本語学習は7番目であった。

図6 (n=326)

